

2026 年の動向

“長引く米国・イラン戦争が原材料市場に及ぼす影響”

(株) ジョンケルコンサルティング 落合以臣

“The Prolonged U.S.–Iran Conflict and Its Impact on Global Raw Materials”

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

The continuing confrontation between the United States and Iran has placed considerable strain on global raw material markets. With tensions centred around the Strait of Hormuz—one of the world’s most critical energy corridors—oil and LNG shipments have been disrupted, prompting notable increases in energy prices and heightened volatility across related sectors.

Oil benchmarks have risen sharply, while natural gas prices in Europe and Asia have climbed in response to reduced LNG flows. Fertiliser and industrial metals have also been affected, as the Middle East remains a key supplier of sulphur, aluminium and chemical feedstocks. These developments have led to higher production costs for industries such as automotive manufacturing, semiconductors and renewable energy.

Logistical networks are under pressure as vessels divert to longer routes, resulting in delays and elevated freight charges. The breadth of this disruption—spanning energy, metals and fertilisers simultaneously—suggests that prolonged instability may intensify global inflationary trends. For Japanese industries, diversified procurement and resilient supply strategies are becoming increasingly essential in navigating this uncertain geopolitical environment.

2026 年に入り、米国・イスラエルとイランの軍事衝突が長期化し、世界の原材料市場に深刻な影響が生じています。戦場の中心となっているホルムズ海峡は、世界の海上原油輸送の約 35%、LNG の約 20%が通過する最重要ルートであり、海峡周辺の攻撃や封鎖により、タンカーの航行が大幅に減少しています。この結果、世界のエネルギー・原材料供給網は構造的な混乱に陥っています。まず、エネルギー市場への影響が顕著です。原油価格は一時 120ドルを超え、ブレント価格は前年比で 50%以上上昇しています。世界銀行は 2026 年のエネルギー価格が 24%上昇すると予測しており、肥料や金属など他の原材料価格も連動して高騰しています。肥料価格は 31%上昇し、尿素は 60%の急騰となり、世界の農業生産コストを押し上げています。また、中東地域は石油・ガス以外にも硫黄、アルミニウム、メタノール、グラファイトなどの主要供給地であり、海峡封鎖によりこれらの供給が急減しています。アルミニウムは 9%上昇し、銅・ニッケルなどの産業用金属も 10～20%の上昇を示しています。これらの金属は自動車、半導体、電池、再生可能エネルギー産業に不可欠であり、製造業全体のコスト上昇につながっています。さらに、LNG 供給の 20%を担うカタールの輸出が停滞したことで、アジア・欧州のガス価格は 50～60%上昇しています。特に欧州では冬季の備蓄確保が困難となり、エネルギー安全保障への懸念が再び高まっています。物流面でも影響は深刻です。ホルムズ海峡の封鎖により、アジア～欧州航路のコンテナ運賃は 180%上昇し、タンカーのチャーター料は過去最高水準となっています。代替ルートである喜望峰回りは 14～18 日を要し、世界のサプライチェーンは「遅延・不足・高コスト」という三重の負担に直面しています。

今回の原材料ショックの特徴は、1970 年代のオイルショックとは異なり、エネルギーだけでなく、肥料・金属・化学品・農産物など広範な原材料が同時に影響を受けている点です。世界銀行は、2026 年の主要原材料価格が平均 16%上昇すると予測しており、戦争が長期化すれば、世界的なインフレ圧力と供給制約がさらに強まる可能性があります。

米国・イラン戦争は、地域紛争にとどまらず、世界の原材料供給網そのものを揺るがす構造的危機となっています。日本企業においても、エネルギー・金属・化学品の調達リスクが高まり、価格変動と供給不安定化への備えが不可欠です。今後も国際情勢の推移を注視しつつ、調達先の多角化、在庫戦略の見直し、長期契約の再構築など、企業レベルでの対応が求められます。